

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500020		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流		
所在地	千葉県流山市古間木313-21		
自己評価作成日	平成22年12月16日	評価結果市町村受理日	平成23年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	2010年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クララ清流は
1. 寝たきりにさせない
2. メリハリをつけた生活リズムの継続
3. 残存機能を活かしてできることはご自分で
を合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

クララ清流、「クララ」はスペイン語で明るいの意味。その名の通り採光に配慮された施設で、利用者家族とともに明るく開放的な運営を行っている。ホーム長以下、開設以来の複数の職員が中心となってチームワーク良くサービスの提供に努めている。毎朝窓を開放し外気を導入してベッドメイクを行い、日中は極力居間で皆で機能訓練を兼ねたレクを楽しむ等、メリハリをつけた生活リズムを継続できる介護を実践している。また、昨年度の外部評価やアンケート結果をスタッフ間で話し合い、ホームの課題として改善に取り組み成果を上げている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念である「利用者様を尊い存在として大切に思う心をもって」介護サービスに携わる」を、スタッフ一同共有し、ケアにおいての実践につなげている。	理念に賛同して当ホームを立ち上げた複数のスタッフが、現在も中心となって運営に当たっており、OJTを通じてその後採用されたスタッフにも脈々と継承されている。理念は玄関等に分かり易く掲示し、広報もされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日日課になっている散歩のときに、御近所の方々との挨拶や会話などで交流を深めている。	近所の方を招いて「お茶会」を開催し、認知症のケアについての情報提供したり防災訓練等に参加願う等、親密な関係を作り上げている。毎日の散歩時にも気軽に挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の散歩や近隣とお茶会・消防訓練を通して、認知症の方への接し方やケアを参考として頂いたり、質問や感想を述べて頂く機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後、スタッフミーティング上で今後サービス向上に活かせるように話し合っている。	運営推進会議は10日開催と決めて年4回実施している。地域包括や地域代表の方のみならず、毎回多数の家族の参加を得ている。活動状況や外部評価の報告、行事等についての相談等都度のテーマで話し合い、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者が同席するグループホーム連絡会に積極的に参加しており、折にふれて実情を伝えたり、良い関係を築くように心がけている。	市の担当職員が同席するグループホーム連絡会等に、積極的に参加して交流を深めている。また、諸申請業務やホームの運営等についての報告等、随時相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の「身体拘束廃止研修」にスタッフが参加し、ミーティングで報告したり、資料を各自読み正しく理解し身体拘束はしないようにしている。	玄関にはセキュリティーのチャイムは設定しているが施錠はせず、自由に出入りできる。身体拘束廃止の外部研修に参加するとともに、内部研修も実施し身体拘束についての正しい理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者とスタッフは虐待について理解し防止に努めている。身体チェックはまめに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後は勉強会を開きたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には契約について十分な説明を行い、質問にも十分対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画書のご確認の際や、管理者との面談の機会、スタッフとご家族との会話の中で、ご要望や意見を聞き取るよう心がけている。	運営推進会議に毎回多数の家族の参加を得て開催し、運営についての意見交換をしている。また、介護計画については必ず家族に説明し話し合っている。来所の少ない家族にも都度報告し意向を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングにおいて、またホーム長とスタッフとの良いコミュニケーションができていて関係の中で、意見や提案を聞く機会がある。	スタッフミーティングにおいて、運営に関する諸事項を話し合っている。また、現場で話し合った結果をもとにマニュアルを見直す等スタッフの提案を重視した運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、個人面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会を多く設けたり、現場で指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、管理者がグループホーム連絡会を通して、職員が見学・交流する機会を設けていきたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心できるホームとしての足がかりになることを意識しながら、入居者との行動を共にし、よく話を傾聴することによって、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者は初期段階で、ご家族様から要望や不安なことなどを聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	極力、努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員は、ご入居者様を人生の先輩として接しつつも、暮らしを共にする者として日常的な活動を共に行うことによって、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子をお伝えしながらも、ご面会の際にはご家族様とのお時間を十分持って頂くよう心がけ、必要な場合には家族としての支援を要請している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日の生活の中で明るく安心感を与える環境作りを心がけている。馴染みの方の訪問がしやすいような雰囲気や声かけを心がけている。	馴染みの場所への往来は難しい事情があるが、全員に手作りのクリスマスカードや年賀状作りの支援をしており好評である。また、馴染みの方が訪問しやすい雰囲気作りや声かけも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したり、自分からお話されない方も輪に入れるようお声かけしたり、入居者様同士のコミュニケーションの橋渡し役を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報交換に努め、要望のあったご家族様からの相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き把握し、困難な場合は見守りや話し合いで、ご本人が納得されるように努めている。	アセスメントはセンター方式を取り入れ、利用者の言葉や表情をケース記録にその都度書き込んでいる。職員はその情報を共有し、一人ひとりの思いや希望にそったケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から初期の段階でお聞きしている。今までの生活や環境等を毎日の生活の中からも聞き、毎日が過ごしやすいうように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、また記録などを通して一人ひとりの現状を把握して対応することを心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員に於いては、定期的にモニタリングを行い、その度に担当を変えることにより、意見やアイデアが様々な視点から出るようにして介護計画に活かしている。ご家族様からの意見があれば反映させている。	モニタリングは全職員で定期的に行い、月毎に担当を変え、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら利用者により良い介護計画になるよう努力している。家族にも説明を充分に行い、家族の了解も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を実際的なものとするよう指導し、日々の様子を把握し、職員同士情報を共有し、それぞれ話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況、要望に応じて柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りには参加しているが、施設利用に開放してくれる近くの喫茶店の利用や、町内企画の他のイベントも利用できればと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の同意を元に、協力病院との連携を取り支援している。入居前からの医療機関や訪問診療を希望の方にも、そのようにしている。	協力医療機関による受診を基本としているが、入居前からのかかりつけ医での受診に際しても、情報を提供するなど連携をはかっている。眼科、歯科、検査が必要な時の通院は家族が行っており、受診結果の情報は職員にも共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に詳しい情報を送り、適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師やご家族様と話し合い、方針の共有化を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の医師やご家族様と話し合い方針の共有化を図っている。	重度化や終末期に向けて利用者・家族の意向を把握し、話し合いを重ねている。医療処置が必要な場合には協力医と連携をとり対応している。できる限りホームで生活できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に救急救命法の外部研修に参加させたり、ミーティングで内容を発表している。折にふれて初期対応の指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づいた定期的な消防訓練や、地域の方々の参加を要請して、協力体制を築いていっている。	避難訓練は年2回、消防署立ち合いの下、行っている。夜間の災害を想定した訓練を行い、地域住民や民生委員の協力体制作りにも取り組んでいる。スプリンクラー設置の工事も年明けに予定されている。	いざというときに慌てず確実な避難誘導ができるよう、避難経路や手順について、引き続き日頃から確認しあうようお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念が、人権を尊重する主旨のものであり、常に心がけ、指導している。	法人の理念として「利用者を尊い存在として大切に思う心」を掲げケアに臨んでいる。援助が必要な時も先ず本人の気持ちを大切に、自己決定し易い言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様が話しやすいように心がけたり、希望をお聞きしたり、援助しながら自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床についてそれぞれのペースを尊重したり、心ゆくまでお話ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時、ご自分で出来る方はゆっくりと居室で整容されている。髭や肌のお手入れを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を待ち望んでおられる方には、メニューをお伝えして期待感を高めたり、盛り付けや片付けについて分担し、楽しみながら行っている。同じものを一緒に職員が食事をし、楽しむようにしている。	利用者の好みを取り入れたメニューは好評で、配膳・盛り付けに利用者が積極的に参加し食事時間を楽しみにしている。敷地内の畑で取れた野菜が食卓に並べられたり、近くのレストランなどでの外食も利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については記録して把握している。水分が取りにくいことや身体的な状況に応じて摂取の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず口腔ケアを実施し、一人ひとりに応じた介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック票に記録し、それを元に時間を見計らってトイレ誘導することによって、トイレで排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを排泄チェック表で把握し声掛けのタイミングやさりげない誘導でトイレでの排泄を支援している。夜間帯もなるべくオムツではなくトイレ誘導やパットで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録に基づいて、飲食物の工夫を行ったり、水分摂取や運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、安全に楽しんで入浴して頂けるように努めている。	浴槽は左右に可動でき、麻痺のある方にも優しい作りになっている。入浴中は利用者の本音が聞かれたりするので、リラックスできるよう配慮して。季節のしょうぶ湯やゆず湯等も楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできる限り活動を促し、ふとん干し・シーツ交換すること、気温に応じて調整することによって、安心して睡眠できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者がきちんと把握し、一人ひとり決められた服薬を間違いなく服用するようにしている。薬の処方が変わった時にも、良く観察をし、かかりつけ医との連携を取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあったお手伝いをして頂き、張り合いのある毎日を過ごすことやゲーム、談話、散歩、季節の移り変わり等を話題にしたりと工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出て空気を感ずること、風に当たること、花を見たり、地域の方々との交流などの機会として散歩を日課としている。ご家族様に外出の機会を設けていただくよう働きかけしている。施設と家族様とで日帰りバス旅行を企画し実施した。	天気の日には近くの散歩を日課にしており、地域の方とも挨拶を交わしている。季節の行事を企画したり地域の行事に参加したり、家族と外出する機会もあり積極的に外出支援をしている。9月には家族との日帰りバス旅行を企画・実施し、大好評だった。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については事務所管理が原則だが、買物に行った時にはご本人が支払いを行うことを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしているが不完全ではある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オゾン設備や換気によって匂いの面で配慮している。常に心地よく生活できるように共有の空間を清潔に保ち、季節の花を飾ったりして季節感を取り入れている。	建物内は1時間おきにオゾンミストが注がれ空気が浄化されている。居室は毎朝布団やペットマットを干し換気に努めている。天井が高く、明るいいリビングは清潔で温かい配色になっており、居心地の良い場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに食卓だけではなくソファを設置することによって、気の合ったご入居者様同士が談話をできるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や衣類などを居室に置くようにご家族に要請したりと工夫している。	季節の変わり目には家族が来て衣類の交換や部屋の模様替え等を利用者と一緒に行い、不用な衣類は持ち帰っている。居室内は安全に配慮されすっきりと片付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、廊下を広く取り余裕を持って歩行できるように工夫している。ご自分の居室やトイレの場所がわかるように目印をつけている。		